

平成28年度「特別支援教育に関する実践研究充実事業
(特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究)」報告書

団体名	熊本県
研究開始年度	平成28年度

I 概要

1 指定校の一覧

設置者	学校種	障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
熊本県	特別支援学校	知的障害	くまもとけんりつくまもとしえんがっこう 熊本県立熊本支援学校

2 研究テーマ

育てたい「資質・能力」と指導目標・内容の構造化
～日々の授業改善を教育課程の改善につなげる効果的なカリキュラム・マネジメントの在り方～

3 研究の概要

自立し社会参加するために必要な「資質・能力」を身につけるための授業実践を行い、日々の授業改善を教育課程改善につなげる取組を推進することで、育てたい「資質・能力」を効果的に育む教育課程を編成するようにした。

- (1) 熊本県立熊本支援学校（以下、「指定校」とする。）の学校教育目標が示すめざす子ども像を実現するために、児童生徒に育てたい「資質・能力」の観点別の「引き出したい姿の例」を活用し、妥当性のある目標設定と適切な評価を行うようにした。
- (2) 児童生徒に育てたい「資質・能力」や学習指導要領の指導目標・内容等、指導の根拠を明確にした授業実践を全職員で行い、一人一人の力を伸ばす指導を充実させるようにした。
- (3) 全職員が教育課程改善に参画する仕組みを整え、育てたい「資質・能力」を育む指導を効果的に実現するための教育課程の編成を行うようにした。

これらの取組を教務部、研究部、指導計画部（平成27年度新設）の3分掌部が中心となって進めてきた。また、教育課程改善のPDCAサイクルを支える校内体制の整備も併せて行い、学校全体の組織力でカリキュラム・マネジメントを行うようにした。

4 研究の成果

- (1) 育てたい「資質・能力」一覧表に対応させ、3つの観点（「関心、意欲、態度」「知識、理解技能」「思考、判断、表現」）で「観点別に引き出したい姿の例」を一覧表に整理し、個別の指導計画での目標設定時等に活用したことで、目標の具体化、評価の明確化につなげることができた。
- (2) 各学部で特定の教科に焦点を当てて授業検討を進めるグループ研究を行い、児童生徒に育てたい「資質・能力」や学習指導要領の指導目標・内容等指導の根拠を明確にした授業実践を実施することができた。

- (3) 各学部で焦点を当てた教科についての題材の目標達成状況はどの学部も80%を超えるなど、一人一人の力を伸ばす指導につなげることができた。
- (4) 指定校におけるカリキュラム・マネジメントの全体像を図式化するとともに、個々の教員の日々の教育活動が教育課程改善につながる年間スケジュールを時系列に整理したことで、日々の教育活動と教育課程改善のつながりを意識した実践を進めることができた。
- (5) 日々の授業実践を「授業評価シート」にまとめ、「教育課程評価アンケート」に反映させるシステムを活用し、教育課程の検討を行うことができた。
- (6) 平成29年1月に実施した職員アンケートでは「教育課程改善に参画することができたか」の問いに対し、「十分できた・ややできた」の割合を合わせると84%となり、個々の職員が教育課程改善に参画する意識が高まりつつある。

5 課題と今後の方策

- (1) カリキュラム・マネジメントを更に有効に機能させるための評価の在り方の検討
 - 児童生徒が身につけたことを更に的確に評価していくために、学習指導要領改訂の動向も踏まえ育成を目指す資質・能力の3つの観点（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）に沿った学習評価について先行研究も踏まえ、研究に取り組む。
- (2) 専門性の更なる向上
 - 児童生徒の実態や障がいの特性、卒業後の生活、学習指導要領の目標・内容等を踏まえ、教師が的確な目標設定や適切な評価をする力、的確な自立活動の指導ができる力を高める研修や授業研究、事例研究などに取り組む。

※「障害」のひらがな表記について：熊本県では、平成20年1月から法令、条例、規則や固有名称等を除き、「障がい」のひらがな表記に努めている。